



校長室だより

令和5年度

6月13日

NO. 12

地域や社会にふれて、学んで、つながること

税金と聞いても、子供たちにとってはぴんと来ない子も多いのではないのでしょうか。という私自身も、払ってはいるものの普段あまり関心をもったことはありません。(反省です)岡崎市では毎年、法人会の方による租税教室が開かれていて、6月7日(水)には、秦梨小で、法人会の棚橋様にお越しいただき、6年生が税金についてのお話を聞きました。子供たち自身、直接、税金を払うことは少ないですが、(消費税も税金という意識で払っている子も少ないと思いますが)税金の意味や使い道などについて、勉強することができました。「映像もあり、分かりやすかった」と子供たちからも声が聞かれ、税金の重要性などがよく分かりました。わが国ではこうした経済や金融のことは、なかなか小学校で勉強することは少ないです。子供でもゲームで勝手に課金してしまったり、実際に現金で買い物をしなかったりする子もいて、生活の中でも、一人で電車やバスに乗ったことはなくお金の払い方も知らない子もいると聞きます。災害や事故でなくても、そうしたお金の「災害」に子供たちが会わないように、また、そうした「災害」から身を守るようになるために、子供のうちから、「お金」のことについて、いろいろ勉強する必要もあると、感じます。

また、6月8日(木)には、岡崎市の栄養教諭の松井先生による栄養や食事の授業がありました。1, 2年生の子は、その日の給食の材料について聞き、どんな栄養になるかを学びました。その中でも、材料当てクイズは大盛り上がりで、みんなで箱の中にある材料を当てられると、大喜びで歓声を上げました。3, 4年生は、自分たちの給食が作られている「給食センター」のことを学びました。岡崎市の給食センターでは小中学校全員の給食を作っています。そこで働いている人たちは、毎月、健康であるかの検査を行い、(当たり前かもしれませんが)毎日、エプロンや手袋、マスクなどをして調理をしています。さらに、安全・衛生



を守るために、野菜は3回も洗ったり、できたものは必ず試食をしたり、菌がないかできた給食の温度を測ったり…と、本当に様々な面で、子供たちの安全安心のために工夫して調理していると聞いて、私自身も頭の下がる思いでした。昼の放送での、「栄養の先生に教えてもらったことを活かして、感謝して食べましょう」という委員の言葉が、子供たち自身も身にしみたことでしょう。

学区の中でもそうですが、子供たちは、社会や地域のお世話になっていることがたくさんあります。本当にありがたいことです。けれど実際、普段の授業では、こうして専門の人からお話を聞く機会は少なく、学校の外のことに直接、触れることができません。今回のようなこうした機会が、子供たちがいろいろな人やことに興味をもち、自分たちと周りとの関わりを知り、感謝の気持ちをもてる、そんなチャンスになるとよいと考えます。